



# クリーンラーチはカラマツよりもユキウサギによる被害を受けにくい — 下川町における事例 —

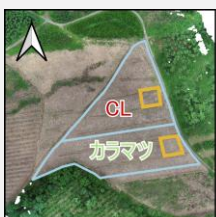
道総研

林業試験場 保護種苗部 保護グループ 時田勝広

## 背景

- エゾユキウサギ（以下、ユキウサギ）による主軸切断被害は、苗木の成長を遅らせる要因となります。
- カラマツとクリーンラーチ（CL）で、ユキウサギ被害の受け方を把握することは、植栽樹種を選択する上で有益な情報となります。
- ウサギ被害の発生率は、樹種や苗木サイズにより異なることが知られています。

## 調査地の概要



調査地	北海道上川郡下川町 町有林
状況	主伐後の再造林地
植栽苗木	2年生裸苗
植栽密度	1,515本/ha
植栽年	2024年春
調査日	2025年6月18日



## 目的

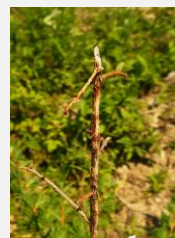
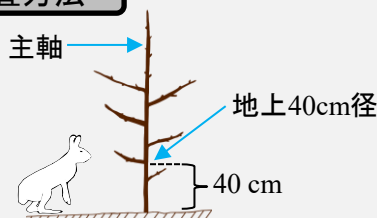
ユキウサギによる主軸切断被害は、カラマツとCLで違いがあるか？

《樹種とサイズと被害率の関係性について評価》

## 結論

**CLはカラマツよりもユキウサギの被害を受けにくかった**

## 調査方法



1. 主軸切断被害の有無
2. 地上高40 cmの主軸の直径
3. 切断部の地上高（切断高）、主軸径（切断径）
4. 無被害木の前年の苗長

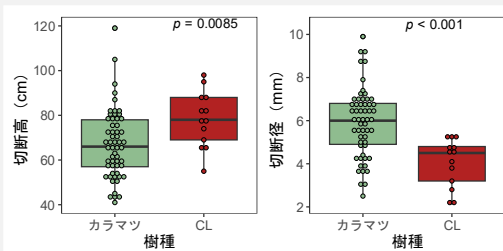
## 結果

①主軸の直径に樹種間の差はなかった

③CLはカラマツより高く細い部分を切断されていた

樹種	解析本数	地上40cm径 (mm)
カラマツ	112	9.49 ± 0.28
CL	105	9.80 ± 0.25

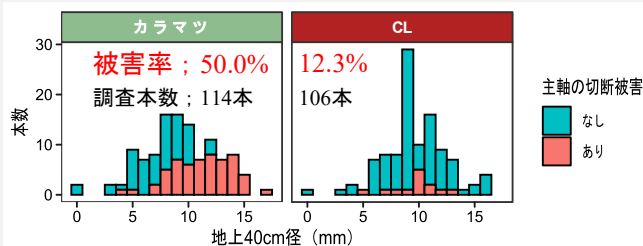
( $p = 0.42$ ,  $t$ 検定)



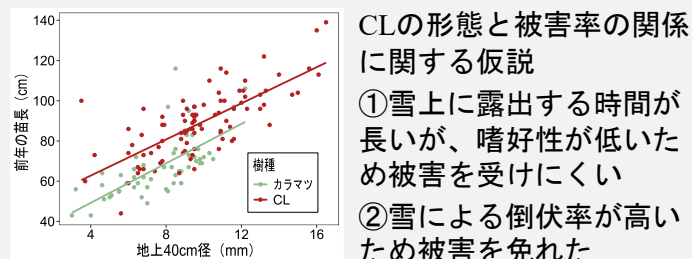
p値はウィルコクソンの順位和検定

④CLの形状比はカラマツより高かった

②被害率はCLが低かった ( $p < 0.001$ , Fisherの正確確率検定)



- カラマツは地上40 cm径が13 mm以上の個体全てが被害を受けました。  
→大型の個体ほど主軸が雪上に露出している時間が長く、被害が増加した可能性があります。
- CLは地上40 cm径に関わらず、カラマツに比べてあまり被害を受けませんでした。



無被害木のみで解析。

CLの形態と被害率の関係に関する仮説

- ①雪上に露出する時間が長い、嗜好性が低いため被害を受けにくい
- ②雪による倒伏率が高いため被害を免れた

## 今後の展開

ユキウサギの樹種嗜好性に関連する要因の特定については、カラマツ類の防御機構に関する研究および他地域での調査が必要です。ユキウサギ被害に関する事例を引き続き調査していきます。

参考文献：時田勝広・南野一博・明石信廣（2025）北海道下川町のカラマツおよびクリーンラーチの比較試験地におけるエゾユキウサギによる主軸切断被害。北方森林研究 74:55-58.